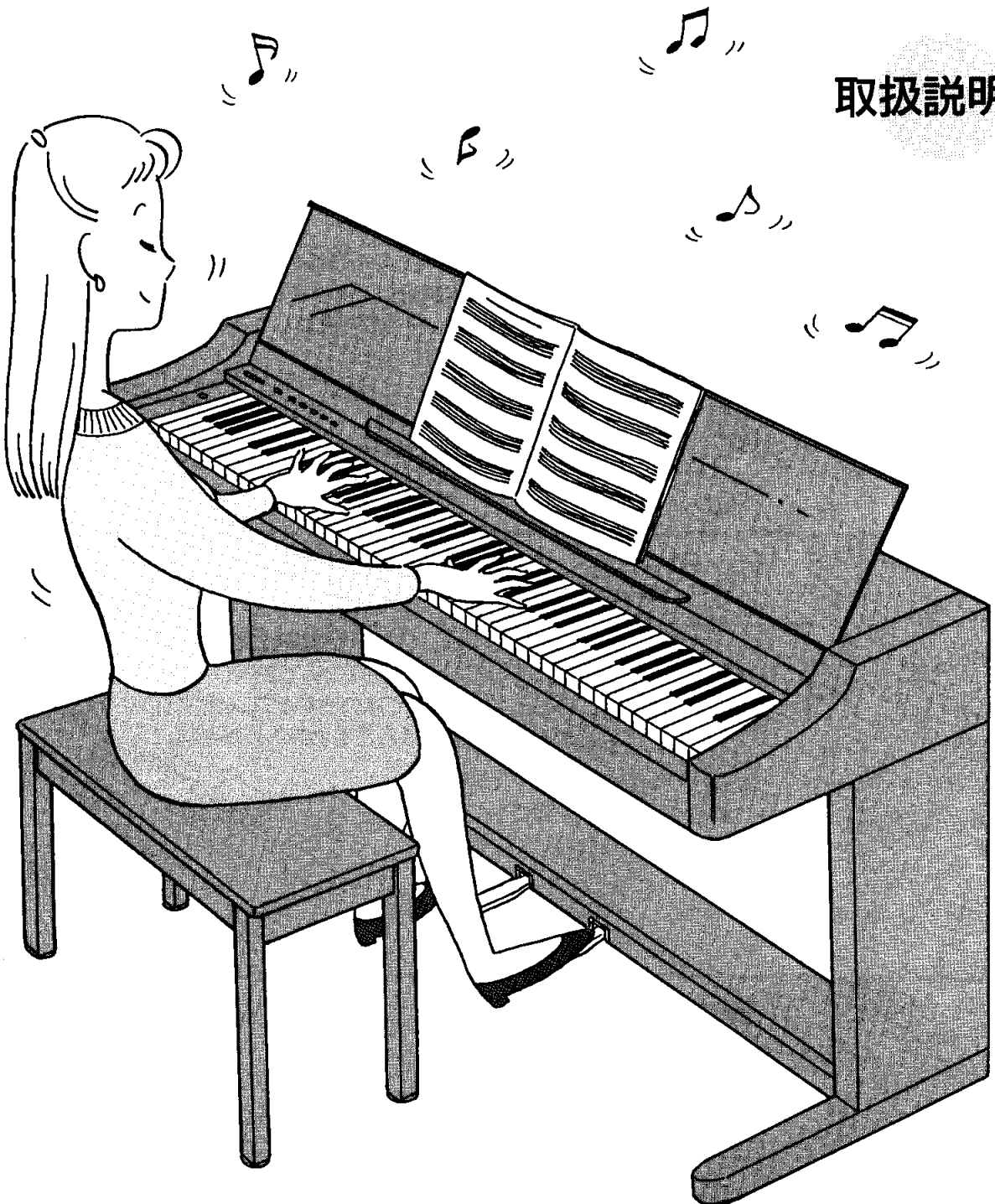


YAMAHA

Clavinova[®]

CLP-121

取扱説明書



このたびは、ヤマハ・クラビノーバをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

クラビノーバは、楽器づくりの経験豊かなヤマハが、伝統につちかわれた感性と先進のエレクトロニクス技術を結集して完成させた、画期的な鍵盤楽器です。

本書では、クラビノーバの魅力をいつまでもお楽しみいただけますよう、正しい取扱方法を説明しています。ぜひ、ご一読ください。

本書の構成

はじめに

「はじめに」では、CLP-121の特長や、お使いになる上でのご注意、読みたいページの見つけ方などについて説明してあります。CLP-121を最初にお使いになる前に、必ずお読みください。

基本編

「基本編」では、CLP-121を演奏するにあたって、基本的に知っておきたいことを説明してあります。とりあえずCLP-121で演奏してみたいという方は、まずここだけをお読みください。

活用編

「活用編」では、CLP-121の発展的な機能や、他の機器との接続方法、そしてMIDI機能について説明してあります。CLP-121を使って他の楽器とアンサンブルをする方、またMIDI機能を活用する方はここをお読みください。

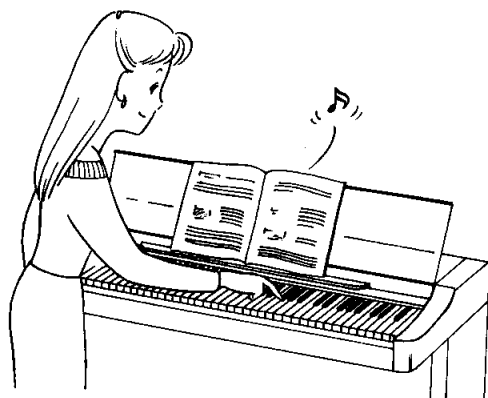
資料編

「資料編」では、CLP-121の組み立てかたなど、お使いになる上で役に立つ資料をまとめてあります。

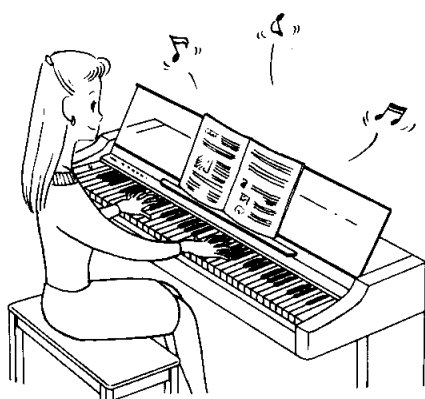
目次



ご注意	2
特長	3
目的のページの見つけ方	3
表記上のきまり	3



各部の名称とはたらき	4
さあ！弾いてみましょう	6
デモ演奏を聴いてみましょう	10
ペダル効果	11
デュアル機能	13



トランスポーズ(移調)機能	15
ピッチコントロール機能	16
他の機器と接続する	18
MIDIについて	19
MIDIチャンネルの設定	21
MIDIトランスポーズの設定	22
その他のMIDI設定	23
MIDIデータフォーマット	26
MIDIインプリメンテーションチャートとは	28
MIDIインプリメンテーションチャート	29



クラビノーバの組み立てかた	30
仕様	32
オプション(別売品)のご紹介	32
アフターサービスと保証	33

はじめに

音楽を楽しむエチケット



この製品は、音楽を楽しむための製品です。
音の質を向上させるために、ヘッドホンやイヤホンを使用してください。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ご注意

設置場所



次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

お取り扱い



物をぶつけたり、上に乗るなど、乱暴に扱わないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

電源の処理



ご使用後は電源を切ってください。

長期間ご使用にならない場合は、電源コードをコンセントから抜いてください。

外装のお手入れ



お手入れは、乾いた布でカラぶきするか、汚れのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。また、ビニール製品を上に乗らないでください。

他の電気機器への影響



ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生したり、誤動作することがあります。十分に離してご使用ください。

保証書の手続き



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも修理の費用をいただくことになりますので、充分ご注意ください。

保管



取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

特長

- ◆AWM音源によりリアルで高品位な表現が可能です。
- ◆28/14音同時発音により、幅広い演奏表現が可能です。
- ◆ピアノのアクション機構解析から生まれた小気味良いタッチ感覚のAE鍵盤を採用しました。
- ◆デュアル機能により、2つの音色を重ねて演奏できます。
- ◆ユニークなクラビノーバトーン音色により、新鮮な音楽表現が可能です。
- ◆拡張用の接続端子に加えデジタル楽器の統一規格であるMIDI端子を装備しており、演奏表現の可能性がいっそう広がります。

目的のページの見つけ方

必要な情報を手早く見つける方法はいくつかあります。

- ◆巻頭の「目次」を使う。
最も一般的な方法です。
- ◆「基本編」の中の「各部の名称とはたらき」を参考にする。
ボタンなどの働きがわからなくなった時に、有効な方法です。
パネルのイラストから、関連ページがすぐに探し出せます。

表記上のきまり

この取扱説明書では、表記に次のような記号を使います。

 補足 : 補足説明です。

●  ○ : 本書の手順の説明のイラストで、ランプの点灯、点滅、消灯は、それぞれ
点灯 点滅 消灯 このように表します。

基本編

各部の名称とはたらき

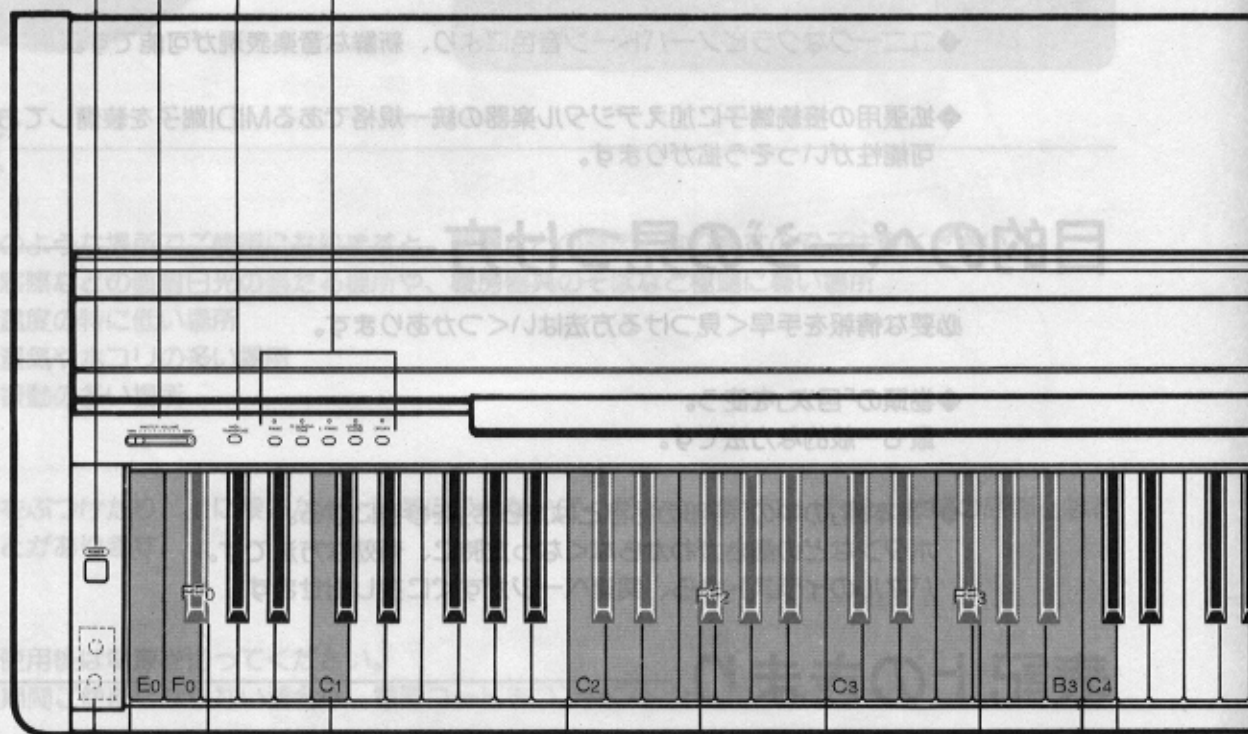
矢印(→)のページに詳しく説明してあります。

①電源スイッチ[POWER] → 6ページ

②ボリューム[MASTER VOLUME] → 6ページ

③MIDI/トランスポーズボタン[MIDI/TRANSPOSE] → 15、21～25ページ

④音色ボタン → 6、13ページ



デュアルで左側の音色を
1オクターブ上げる鍵盤

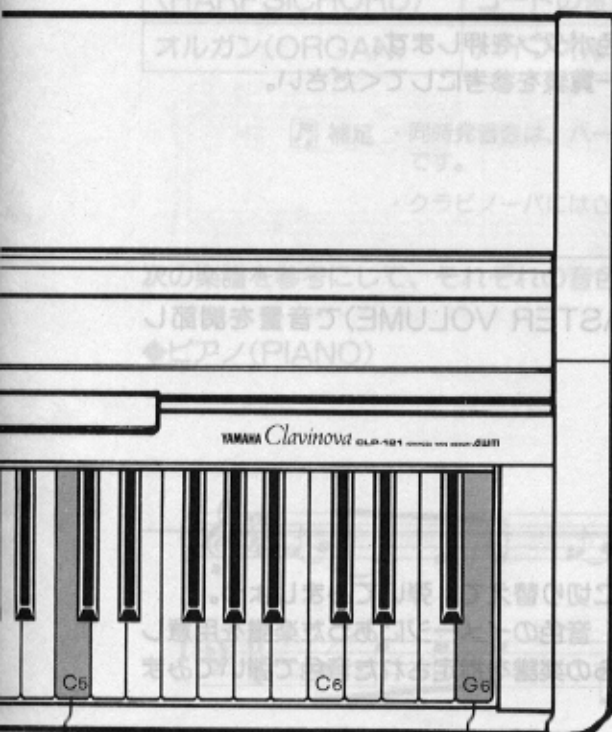
⑥ピッチコントロール用鍵盤
→ 16ページ

⑧バランス用鍵盤
→ 13ページ

⑤ヘッドフォン端子
(裏面にあります)

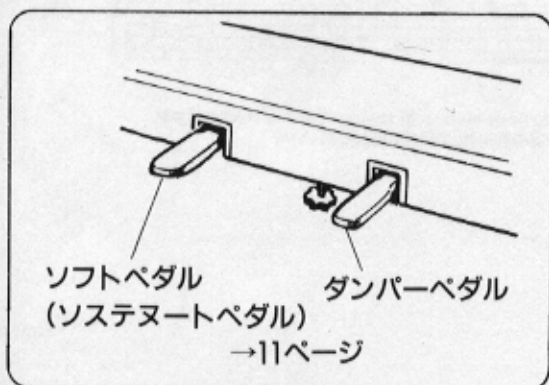
⑦トランスポーズ用鍵盤
→ 15ページ

リアパネルの説明は18ページをご覧ください。



デュアルで右側の音色を
1オクターブ上げる鍵盤

⑨デモ用鍵盤
→10ページ



ソフトペダル
(ソステヌートペダル)
ダンパーペダル
→11ページ

①電源スイッチ[POWER] →6ページ

CLP-121の電源をオン/オフするスイッチです。このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。

②ボリューム[MASTER VOLUME] →6ページ

音量を調節するためのレバーです。

③MIDI/トランスポーズボタン[MIDI/TRANPOSE] →15、21～25ページ

MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をするときに使用します。

④音色ボタン →6、13ページ

演奏に使う音色を選ぶことができます。

同時に2つのボタンを押すことで、2つの音色を重ねて演奏することもできます。(デュアル機能 →13ページ)

⑤ヘッドフォン端子(裏面にあります)

ヘッドフォンを接続すると、クラビノーバのスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。2つのヘッドフォンを接続することができますので、お子様のレッスンをもう一人の方が確認したり、アンサンブルも可能です。

⑥ピッチコントロール用鍵盤 →16ページ

ピッチ(音程)の設定で使用する鍵盤です。

⑦トランスポーズ用鍵盤 →15ページ

トランスポーズ(移調)の設定で使用する鍵盤です。

⑧バランス用鍵盤 →13ページ

デュアルモードでの音量バランスを設定する時に使用する鍵盤です。

⑨デモ用鍵盤 →10ページ

デモ演奏を楽しむ時に使用する鍵盤です。

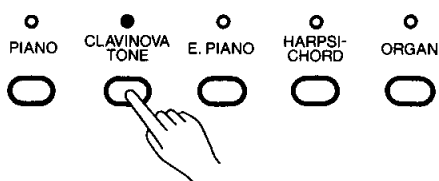
さあ！弾いてみましょう

1 電源を入れる



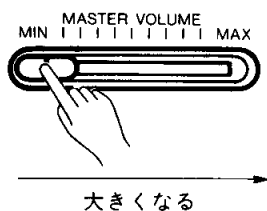
家庭用(AC100V)コンセントに電源プラグを差し込み、電源(POWER)スイッチを押して電源を入れます。

2 音色の指定



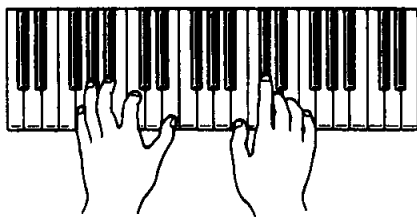
音色を選んで音色ボタンを押します。
次ページの音色一覧表を参考にしてください。

3 音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

4 演奏



いろいろな音色に切り替えて、弾いてみましょう。
次ページ以降に、音色のイメージにあった楽譜を用意しています。これらの楽譜を指定された音色で弾いてみましょう。

音色一覧表

音色	説明
ピアノ (PIANO)	グランドピアノの音です。ダイナミックで豊かな響きです。
クラビノーバトーン (CLAVINOVA TONE)	ストリングス風の温かい音色とハープ風の固めの音をミックスした新しいイメージの音です。ドビュッシーなど、夢のあるムーディーな曲にお勧めです。
エレクトリックピアノ (E.PIANO)	エレクトリックピアノの音色です。固めのクリアーな音です。
ハープシコード (HARPSICHORD)	バロック音楽などでよく使われる、ピアノの原形ともいわれる鍵盤楽器ハープシコードの音色です。
オルガン (ORGAN)	パイプオルガンの音色です。

🎵 補足 ・同時発音数は、ハープシコードは28音(28音ポリフォニック)、他の音色は14音(14音ポリフォニック)です。

・クラビノーバにはさまざまな効果や機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

次の楽譜を参考にして、それぞれの音色で演奏してみてください。

◆ピアノ (PIANO)

トルコ行進曲

作曲：L.v. Beethoven



◆クラビノーバトーン(CLAVINOVA TONE)

恋におちて

作曲：小林明子



日本音楽著作権協会(出)許諾第9260033-201号

◆エレクトリックピアノ(E.PIANO)

ムーン・リバー

作曲：Henry Mancini



MOON RIVER from the Paramount film "BREAKFAST AT TIFFANY'S" Word by Johnny Mercer Music by Henry Mancini © 1961 by FAMOUS MUSIC CORP.
All rights reserved. Used by permission. Authorized to NICHION, INC. for sale only in Japan. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9260033-201号

◆ハーブシコード(HARPSICHORD)

主よ人の望みの喜びよ

作曲：J. S. Bach



◆オルガン(ORGAN)

もろびとこぞりて

作曲：G. F. Händel

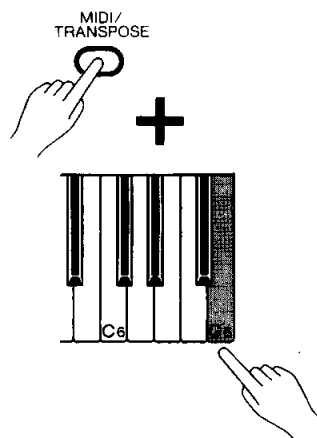


デモ演奏を聴いてみましょう

CLP-121には、デモ演奏が1曲内蔵されており、いつでも自由に聴くことができます。

1

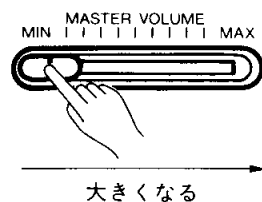
デモ演奏をスタートさせる



MIDI/トランスポーズ(MIDI/TRANSPOSE)ボタンを押しながら、G₆(右端)の鍵盤を押します。すると、デモ演奏がスタートし、ストップさせるまで繰り返されます。

2

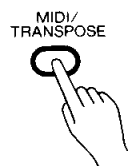
音量調節



ボリューム(MASTER VOLUME)で音量を調節します。

3

デモ演奏をストップさせる

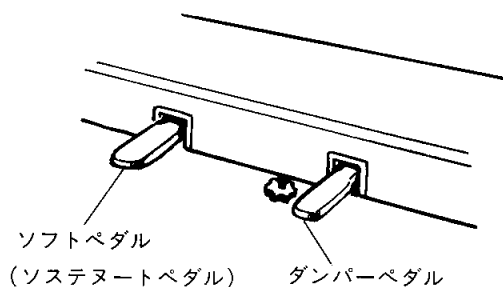


MIDI/トランスポーズボタンを押すと、デモ演奏がストップし、通常の状態に戻ります。

- 🎵 補足 ・デモ曲は、ベートーベンの“エリーゼのために”です。
・デモ演奏を聴きながら、同じ音色で演奏することもできます。

ペダル効果

CLP-121のスタンド部分には2つのペダルがついています。左側のソフトペダルは切り替えて、ソステヌートペダルにすることもできます。各ペダルの効果をうまく使い分けましょう。



ダンパーペダル

アコースティックピアノを演奏する際に最もよく使うペダルです。
ペダルを踏むと、すべての音に余韻がかかります。

音色をピアノにして、次の楽譜の①の印でダンパーペダルを踏み、効果を確認してください。

ラブ・ミー・テンダー

作曲：Elvis Presley & Vera Matson

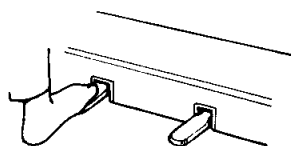


LOVE ME TENDER by Elvis Presley & Vera Matson © 1956 by ELVIS PRESLEY MUSIC, INC. All rights reserved. Used by permission. Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9260033-201号

② ソフト/ソステヌートの選択



+



MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ソフトペダルを踏むと、ソステヌートペダルになります。もう一度同じ操作をすると、ソフトペダルに戻ります。

③ ソフトペダル

音量がわずかに下がると同時に、音の響きが柔らかくなります。

音色をピアノにして、⑤のマークからソフトペダルを踏み、効果を確認してください。音の響きを柔らかくしたいところで使うと効果的です。

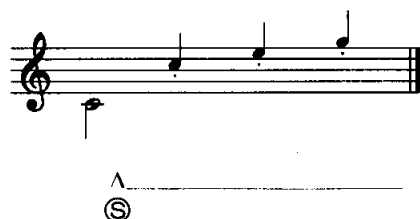


④ ソステヌートペダル

ペダルを踏んだ時に押さえていた鍵盤の音だけに余韻が付きます(ソステヌート効果)。ペダルを踏んだ後に弾いた音には、余韻は付きません。

低音部の音だけを響かせながら、右手でメロディーを弾くときなどに使用します。

音色をピアノにして、初めの「ド」を弾いた直後にソステヌートペダルを踏み、効果を確認してください。初めの「ド」の音だけがのびたのがわかりますね。ソステヌート効果は、ドビュッシーの「月の光」などに使われています。



補足 ・ソフト/ソステヌートの選択は、電源をオフにするまで記憶されます。
・電源オン時には、ソフトペダルになっています。

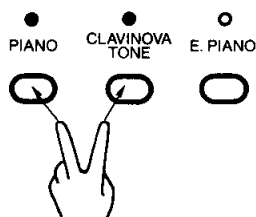
デュアル機能

2つの音色を選んで、重ねて演奏することができます。

1

デュアル状態に入る

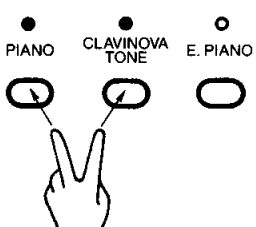
組み合わせたい2つの音色ボタンを同時に押します。



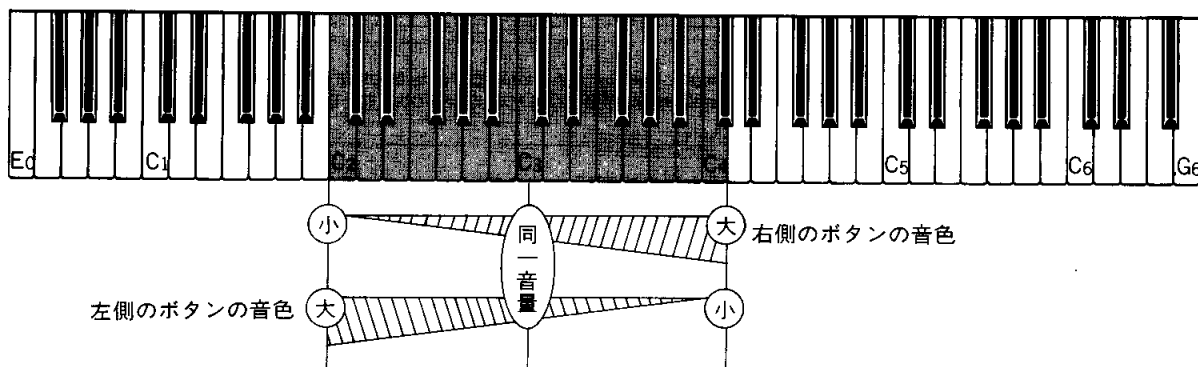
2

音量バランスの設定

組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C₂~C₄の鍵盤を押すことで、2つの音色の音量バランスを設定できます。



+



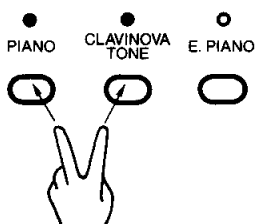
3

片方を1オクターブ上げる設定

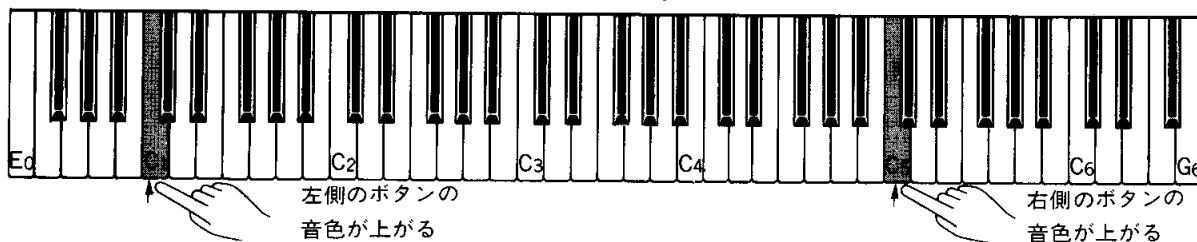
組み合わせた2つの音色ボタンを押しながら、C₅の鍵盤を押すと ...音色ボタンが右側に配置されている音色が、1オクターブ上がります。

C₁の鍵盤を押すと ...音色ボタンが左側に配置されている音色が、1オクターブ上がります。

いずれの場合も、もう一度同じ操作をすると、元の音程に戻ります。



+





デュアルで演奏してみよう

それでは、ピアノとクラビノーバトーンのデュアル状態にして、次の楽譜を演奏してみましょう。

星に願いを

作曲：Leigh Harline



WHEN YOU WISH UPON A STAR Words by Ned Washington Music by Leigh Harline © 1940 by BOURNE CO. (Renewed 1961) International Copyright Secured. All Rights Reserved. The Rights for Japan Administered by HIGH NOTE PUBLISHING CO., LTD. 日本音楽著作権協会(出)許諾第9260033-201号

- 🎵 補足
- ・設定は、電源をオフにするまで記憶されます。
 - ・オクターブは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、全て同一オクターブになっています。
 - ・音量バランスは、音色の組み合わせごとに設定できます。電源オン時には、下表の鍵盤を押して設定したバランスになっています。

	オルガン	ハーブシ コード	エレクトリック ピアノ	クラビノーバ トーン
ピアノ	E ₂	C ₃	C ₃	C ₃
クラビノーバ トーン	F ₂	C ₃	C ₃	
エレクトリック ピアノ	E ₂	C ₃		
ハーブシ コード	G ₂			

C₂：左側音色最大音量/右側音色最小音量(0)

C₃：同一音量

C₄：左側音色最小音量(0)/右側音色最大音量

